

事業名

地縁知縁の絆創生プロジェクト～新しい公共の場としての「三鷹まちなか協働サロン」運営に向けて～

評価項目

No	項目	記入欄 内容が分かるように、200字以上～300字以内で簡潔にまとめて記載してください。	自己採点
1	成果目標	<p>目標：2地区（4拠点）×200人/月×12カ月＝4,800人 実績：各拠点合計 6,572人 達成率：137%</p> <p>協議会においても、各拠点においても、また地域においても、全く新しい、前例のない事業であったことから、結果的に手探り状態の時間が長くかかってしまい、当初の理想としていた、より自然な形で、多くの市民が交流するようなレベルまでは達することができなかった。当初目標設定した数値は達成できているが、各拠点がさらに地域に定着していけるよう、引き続き拠点や活動内容、イベントの周知を行っていき、利用者数増を図っていく必要がある。</p>	4
2	市民性	<p>各拠点の運営を市民が行っていること、利用者が主に各拠点の近所の方たち（市民）であること、イベントを企画しているのが、三鷹ネットワーク大学をはじめとした市内の団体であること、事業全体を統括している協議会のメンバーが、市内の団体であることなどから、市民の市民による事業と言える。</p> <p>これまで地域での商業活動で中心的な役割を担ってきて頂いた方々に、拠点を運営するサロンコーディネーターを務めてもらったが、モデル事業を終了するにあたり、本事業の必要性を改めて認識したという感想を頂けたことは、今後のコミュニティ創生の拠点として、大きな価値を持つものと考えている。</p>	3
3	波及効果	<p>今回、様々な行政課題を、地域で中心的に活躍している市民と行政が深いレベルで行政課題を共有できたことは、これまでの三鷹市の市民参加の歴史が大きく影響していると推察する。ただ、三鷹市内だけでも、世代間、地域間などで市民意識は多様であり、行政と市民の距離感も様々である。このような多様な価値感を持つ市民同士が交流するモデルを作るという点では、まだ完成には至っていない。今後は、さらに各地域の特徴を反映した、自由で自主的な活動、加えてこれらを支援する活動を通じて、これらの課題の解決を図っていくことが必要と考える。</p>	3
4	継続性	<p>三鷹まちなか協働サロンの継続に伴い、サロン運営を側面から支援するため、運営協議会は活動を継続する。しかし、サロン運営に伴う財政的な支援をできる団体は少ない状況であり、三鷹ネットワーク大学推進機構が既存の事業として展開している「協働サロン事業」の機能</p>	3

新しい公共の場づくりのためのモデル事業 自己評価シート

		<p>を活用して、各拠点で開催されるイベントへの講師の派遣やその謝金の支払いなどを担当することを検討している。また、すでに開設・運用しているまちなか協働サロンのホームページについては、引き続き内容の更新などを行い、PR等に努めていくこととし、サイトの維持管理に必要な手続き等を完了したところである。このほか、運営協議会の各構成団体によるサロンへの情報提供（チラシの配布等）や、まちなか協働サロンの情報共有のための協議会の開催を継続して行うこととしている。</p>	
5	<p>マルチステークホルダー・プロセス</p>	<p>今回、協議会を構成した各団体は、地域における他の事業などにも協働で取り組んでおり、まちなか協働サロン事業の実施にあたってはそうした日ごろからの連携の効果を発揮できたと考えている。特に本事業の中心となる各拠点は、すべて商業関係者による運営であったが、実施されたイベントは、介護に関するセミナーや相談会、生涯学習的な事業など、全くの異業種、異文化の事業が展開された。これらはマルチステークホルダー・プロセスによる効果であったと評価する。</p>	3

合計点

16

ランク

A